

目黒区納税貯蓄組合連合会会長賞

推し活と税

桜修館中等教育学校 三年

市原 咲都

私は、応援しているケーポップアイドル、いわゆる「推し」がいる。そして、貯金をしている。そう、好きな芸能人やキヤラクターなどを応援する活動、「推し活」のための貯金だ。誰かを好きになつて応援するというのは、自分の感情や行動に驚くほど力をくれる。

私は、正直、税はまだ自分には関係のない話だと感じていた。

しかし、この作文を書くにあたつて、税について考えたとき、自分の推し活と税がつながつているのかかもしれないと思い、税に興味がわいてきた。

まずは、税について知ることにした。学校や病院、図書館や公園、さらには道路や信号までもが税金によつて成り立つていて、知つた。当たり前だと思っていた日常は、税に支えられていた。自然災害の被災地に対する支援金や、復興のための予算も、税金から出でているというニュースも見かけた。税は単なるルールではなく、社会を支える欠かせない存在なのだと感じた。

それから改めて推し活と税の関係について考えてみると、グッズを買うときに支払う消費税、推しが活動する事務所が納める法

人税、ライブで働く人たちの給料から引かれる所得税。これらはどちらも、ファンの応援によつて生まれるお金から発生している。推し活という一見個人的な行動の一部が、大きな経済の流れの一部になつて、税金という形で社会に貢献していると気付いた。自分のお金が税金になり、社会のために使われていると知り、自分も税に関わる一人だと思うと、前とは違つて、税の存在が一気に身近に感じられた。

さらに、推しのライブやイベントが開催されると、交通機関や飲食店、宿泊施設もにぎわう。観光や地域経済の活性化にもつながり、それによつて得られる税収が地域の発展に一役買うという話も耳にした。つまり、私の推しを応援したいという気持ちが、めぐりめぐつて誰かの暮らしを支える力にもなつてているのだ。なんだか誇らしくなつてくる。

推し活を通じて、将来は働いて税金を納める「納税者」になることも意識するようになった。今はまだ親のお金を使つていて立場だが、社会人になつて自分で収入を得るようになれば、私も本格的な納税者となる。その時、税金がどんなふうに使われているのか、何に使つて欲しいかを考えることは非常に大切だと思う。自分たちのお金で払い、自分たちのために使われるからこそ、関心を持つことが必要だ。

推し活は、自分にとつて楽しくて、前向きになれる大切な趣味だ。そして、税という社会の仕組みと向き合つきつかけにもなつた。好きなことから学んだことは、強く心に残る。そしてそれは、自分の未来のあり方にもつながつていくと信じている。まずは、「好き」で社会に貢献するという、自分なりの形で、社会と関わ

ひらこやま